

2023年11月19日  
礼 拜

聖書

マタイ19章16～26節

19:16 すると見よ、一人の人がイエスに近づいて来て言った。「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをすればよいのでしょうか。」

19:17 イエスは彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方はおひとりです。いのちに入りたと思うなら戒めを守りなさい。」

19:18 彼は「どの戒めですか」と言った。そこでイエスは答えられた。「殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽りの証言をしてはならない。」

19:19 父と母を敬え。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」

19:20 この青年はイエスに言った。「私はそれらすべてを守ってきました。何がまだ欠けているのでしょうか。」

19:21 イエスは彼に言われた。「完全になりたいのなら、帰って、あなたの財産を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになります。そのうえで、わたしに従って来なさい。」

19:22 青年はこのことばを聞くと、悲しみながら立ち去った。多くの財産を持っていたからである。

19:23 そこで、イエスは弟子たちに言われた。「まことに、あなたがたに言います。金持ちが天の御国に入るのは難しいことです。

19:24 もう一度あなたがたに言います。金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうが易しいのです。」

19:25 弟子たちはこれを聞くと、たいへん驚いて言った。「それでは、だれが救われることができるでしょう。」

19:26 イエスは彼らをじっと見つめて言われた。「それは人にはできないことですが、神にはどんなことでもできます。」

説教

「全能の神を信ず。」

使徒信条からの2回目の説教です。  
皆様と一緒に今日も使徒信条を告白しましょう。

## 使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖  
霊によりてやどり、おとめマリヤより生れ、

ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死  
にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、三日目に死人のうちよりよ  
みがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。



かしこより来たりて生ける者と死にたる者とを  
審きたまわん。

我は聖霊を信ず。

聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体(からだ)のよみがえり、永遠(とこしえ)の生命(いのち)を信ず。

アーメン

前回の復習をしておきましょう。

使徒信条は信仰の告白です。私たちの信仰、信じている事をコンパクトにまとめた信仰告白です。

日本の宗教とは違って、信じている内容をこのように信じています、とことばで告白することがキリスト教の特徴です。心の中で信じている事という霊的な面と、信じていることを

体系化してことばに表わして告白する、知性的な面や理性的な面がキリスト教にはあります。

前回学びましたが、神様が人を神様に似るように、  
神様のかたちに創造された、ことから人は霊的、理性的、  
知的、知性的でありますので、神様との交わりの信仰の  
告白もことばで告白する事で  
人格的な交わりになって行きます。

キリスト教は2000年の長い歴史、  
全世界の多くの原語に聖書は翻訳され、  
多くの民族、部族に、世界中の殆どすべての国にキ  
リスト教は広がっています。

様々なことば文化表現でキリスト教信仰を現してい  
ます。

表現は異なっても使徒信条を告白しているか、  
信じているかが、本当のキリスト教か  
偽物か、異端かの区別の基準になります。

使徒信条は三つの部分からなっています

①父なる神様についての告白、

②イエスキリストについての告白、

③聖霊についての告白、

三位一体の神様を信じています、という告白です。

第一は父なる神様についての告白。  
聖書の教える神様は  
天地の創り主  
全能の神  
父なる神  
を信じると告白しています。

前回は創造主なる神を信ずと言うテーマを見つけました。使徒信条の最初のテーマ、  
「天地の創り主なる神」  
創世記1章から創造者なる神について考えました。  
今日は「全能の神を信ず」というテーマに進みます。  
創造者なる神は全能者なる神であります。



創造者なる神様は昔、世界、人類を創造されました。

その創造のわざにおいても神は全能の力あるお方でした。宇宙、自然界、人類を創造された神様はその後何をしておられるのでしょうか。

お休みになったと創世記2章3節に書かれています。ここで休まれたのは創造のわざを休まれたのであって、その後何もされていないではありません。

天地、人類を創造して、神は休まれてなにもしていない、と言う考えは理神論という考えで、正しい理解ではありません。

神様は創造された後、自然世界、人類を維持、管理、支配しておられます。

わたしは全能の神である、(創世記17章1節)  
主があなた方のために戦われる、あなた方は黙ってい  
なければならぬ、(出エジプト記14章14節)  
神にはどんなことでも出来ます、(マタイ19章26節)  
神のにとって不可能なことは一つもない、(ルカ1章37  
節)

天地を創造された神様は、天地を保持するために働き続けておられます。

使徒信条では「全能の父なる神を信ず」と父ということばが入っています。愛なる神様は父として全能性を発揮して人類を愛して助けてくださいます。

罪に墮落した世界に生きる人間が、信仰を持って生きていけるように、神の全能性を特に人間との関わりにおいて働かせて人類にかかわってくださいます。

アブラハム75才、サラ65才、生まれ故郷ウルの地を出て、カナン之地に入り、子孫は空の星の様に多くなる約束を与えられていましたが、まだ子は産まれていません。

10年後待ちきれずに女奴隷ハガルによってイシュマエルが生まれたがアブラハムの家の大騒動となりました。それから13年、アブラハムに子は与えられませんでした。がハガル事件の悔い改めの日々を誠実に送っていました。

アブラハム99才、サラ89才、子どもを産む環境はさらに厳しくなりましたが、神様はわたしは全能の神、来年の今ごろサラはイサクを産むと約束され、その通りイサクが生まれました。アブラハムは神は全能の父なる神、約束を守られる神と信仰を確かなものとしていきました。

アブラハムの後、ヤコブの時から450年、イスラエルは  
エジプトで奴隷生活を送りました。

奴隷生活の苦しみの中に神様はモーセを解放者として  
送られました。

エジプトに10の災いを下されてついにイスラエルはエ  
ジプトを脱出しました。

しかしエジプト王パロは執念深く脱出したイスラエルを  
戦車部隊で追いかけてきました。

イスラエルの70万人の民は、前は紅海の海、後ろはパロ  
の戦車隊の挟み撃ち。

悲鳴を上げるイスラエルの民に「主があなた方のために戦  
われる。あなた方は黙っていなければならない」とモーセは  
全能の神を信じて民を導き、全能の神により紅海の水は  
強風で別れ、イスラエルの民は乾いた紅海を渡り、渡り  
終わった後、追いかけてくるエジプトの戦車隊を海の底に  
沈めてしまい、民は大賛美「主は輝かしくも勝利を収めら  
れた」と小躍りして全能の神を賛美しました。



モーセの時代から1500年が経過。  
天使がガリラヤのナザレのマリヤに現れました。

1:30 すると、御使いは彼女に言った。「恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。1:31 見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。

1:32 その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。

1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。」

ヨセフと婚約中のマリヤに

「あなたは聖霊によって救い主イエスを妊娠しました。」と天使が語り、

マリヤは驚いて

「どうしてそのようなことが起こるのでしょうか。私は男の人を知りませんのに。」と天使に言っています。

1:35 御使いは彼女に答えた。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれます。

1:36 見なさい。あなたの親類のエリサベツ、あの人もあの年になって男の子を宿しています。不妊と言われていた人なのに、今はもう六か月です。

1:37 神にとって不可能なことは何也不会せん。」

「神にとって不可能な事は一つもありません」と言う天使のことばにマリヤは

「ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」

全能の神様を信じ、信賴し、身を委ねています。

聖霊による妊娠という事も、

この奇跡が婚約者ヨセフに理解していただける事も、  
マリヤの両親、家族、周りの人に誤解されないで理解  
される事も、全能の神様は徹底してくださることを信じ  
て委ねています。

最後にマタイ19章の富める青年とイエス様の対話。

イエスは彼に言われた。「完全になりたいのなら、  
帰って、あなたの財産を売り払って貧しい人たちに与  
えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになり  
ます。そのうえで、わたしに従って来なさい。」19:22  
青年はこのことばを聞くと、悲しみながら立ち去った。  
多くの財産を持っていたからである。



この青年はヨハネ福音書に登場する

ニコデモかアリマタヤのヨセフかも知れません。

この時イエス様に背を向けて寂しく去って行きましたが、  
イエス様の十字架を見て、全財産をはたいてでもとイエス様のお体に香油を塗りに行き、信仰を告白しました。  
た。

19:23 そこで、イエスは弟子たちに言われた。「まことに、あなたがたに言います。金持ちが天の御国に入るのは難しいことです。

19:24 もう一度あなたがたに言います。金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうが易しいのです。」

お金に信頼する、執着する思いと、神様に信頼する、  
天秤にかけて、なかなか人間の力で、お金に信頼する  
思いを委ねる、放棄する事は出来ません。人間の  
力では不可能に近い事です。

19:25 弟子たちはこれを聞くと、たいへん驚いて言った。

「それでは、だれが救われることができるでしょう。」

19:26 イエスは彼らをじっと見つめて言われた。「それは人にはできないことですが、神にはどんなことでもできます。」

私たちがイエス様を信じる事も、  
信じて委ねて行くことも

主の全能の力によって与えられ、導かれています。  
全能の神は苦難、試練も主の恵み、主は生きて働いて助けてくださると言う信仰が豊かになるために働き、  
試練も善に、益に変えて用いてくださいます。

様々な苦難、試練の中で助けをいただいたパウロは  
全能の神がいつもそばで助けてくださった事を証しし  
ています。

8:34 だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。8:35 だれが、私たちをキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。

8:36 こう書かれています。「あなたのために、私たちは休みなく殺され、屠られる羊と見なされています。」

8:37 しかし、これらすべてにおいても、私たちを愛して  
くださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です。

8:38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使  
いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るもの  
も、力あるものも、8:39 高いところにあるものも、深い  
ところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私た  
ちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引  
き離すことはできません。



全能の神に信頼して歩みましょう。

祈り。